

間伐材で箸づくり

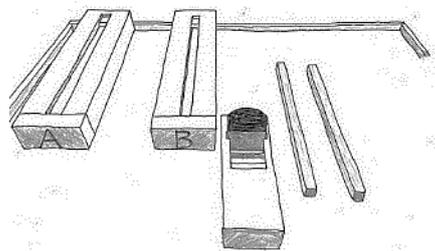


活動場所	実習棟、プレイルーム	自然の家にあるもの	箸セット、紙やすり（以上有料）、かん
所要時間	2時間程度	利用者で用意するもの	油性ペン、オリーブ油（必要な場合）
人数	80名程度	活動時の服装	動きやすい服装

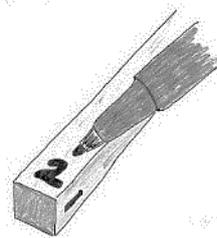
既製品ではなく自然の中からのものを作り出す工夫と体験が、いざという時に焦らず、災害時、そして困難な時にぶつかっても適応する力に繋がります。本プログラムでは、間伐材を利用してかんを用いて箸を作成します。かん

で削った木の肌触りや削るときの感触はいいものです。また、本プログラムで作った箸を用いて後日の野外炊事に使用することもできます。

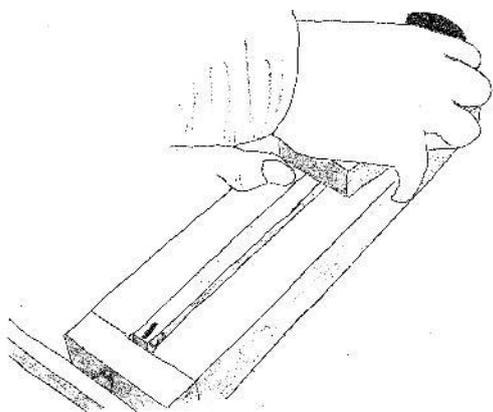
間伐材で箸づくり



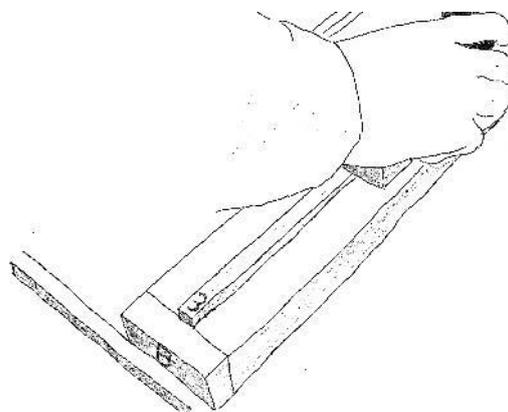
①道具は箸の型わく A 箸の型わく B
かんな
間伐材 2本



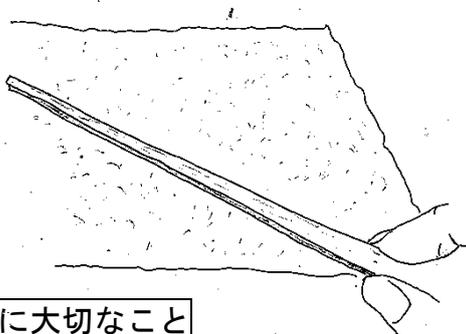
②間伐材の下の辺りに油性ペンで
1 2 3 4の数字を上図のように書
きます。



③箸の型Aに間伐材を1の番号を上に向け置
きます。そして、両手でかんなで型わくと間
伐材の高さが同じになるくらいけずります。
できたら、90度回転させ2番の番号を向
け同じようにけずります。



④③でけずった間伐材を型わくBに3をむけ
て置きます。両手でかんなで型わくと間伐材
の高さが同じになるくらいけずります。
できたら、90度回転させ4番の番号をむ
けけずります。



⑤けずった間伐材をやすりでこすりかどを取
り、丸く調整します。
できたら、もう一つの間伐材も加工し、
世界に一つだけの箸の完成です。
完成後にオリーブ油をぬると長持ちしま
す。

特に大切なこと

- ①けずる順番を間違えないように番号をしっかり書きましょう。
- ②かんなは両手で持ちます。使い方をしっかり聞きましょう。
- ③やすりでけずり過ぎてしまうと細くなりすぎてしまうので気をつけましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・自ら木材を加工し道具を作り出す体験を通して、災害時でも自ら作り出すことのできるものを考える。	総合的な学習	「防災」
・木材加工の伝統的な道具であるかんなを扱い、道具の良さや、木の肌触りなどを感じ、我が国の伝統や文化について気付く。	技術・家庭	「材料と加工の技術」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・実施人数により活動場所が変わるので打ち合わせ時に所員と相談する。
- ・完成した箸にオリーブ油を擦り付けると長持ちする。使用する場合は指導者で用意をする。

イ) 活動中

- ・かんなは両手で使用するよう指導する。
- ・削りが堅い場合は、引率者でかんなの刃を調整する。
- ・削った箸は無くしたり、他者のものと間違えたりしやすいので保管や名前の記入の指導をする。

ウ) 活動後

- ・削った後の削りかすは引率者で片づけ、所定のゴミ箱に入れる。
- ・使った道具は元通りに戻し、元の場所に戻す。

3. 安全対策について

--